

## 『決断とは決めて断つこと』

株式会社エクス 代表取締役  
抱 厚志

昨年より大阪大学のGLPに登壇の機会を頂き、学生を相手にイノベーションやリーダーシップに関する講義を担当させて頂いている。教える側は教えられる側の最低でも5倍の知識が必要だと感じているので、教壇に立つ事は、自分の錬磨という点でも大きな価値があり、学生との接点は学び継続への刺激になっている。

今回はリーダーシップの本質にあるものについての存念をまとめてみたい。

人類の歴史を紐解けば、数多の偉大なリーダーが存在し、その時代や歴史を創って来たことが分かる。当時のリーダーたちの行動を分析し、そのリーダーシップの特性を分類すれば、その時代背景と照らし合わせることにより、状況別に求められるリーダーシップの形が明確化できるのではないかと考え、偉人の記録を読み漁った頃があった。

結論から言えば、明確になったこととは「リーダーシップとマネジメントは異なる」という概念である。

組織を垂直方向に牽引するにはリーダーシップが有効であるが、組織に存在する課題を網羅的に解決し、組織を変化、成長させるためにはマネジメントが必要であり、この二つは補完関係にある。すこし感覚的になるが、リーダーシップとは本質であり、マネジメントはスキルであると定義してみたい。

リーダーシップの本質には多くの定義があると思うが、個人的には「決断する勇気」とであると考えている。リーダーシップが求められる瞬間とは、決断を求められる場面が多いだろう。人は決断を行う前に必ず熟考し迷うものだ。

目の前にAとB、2つの選択肢があれば、どちらを選ぶべきか、組織の視点、メリット・デメリットの比較、実現可能性など、様々な分析を行うであろう。最終的にどちらかに決めなければならないのだが、検討を尽くした選択肢においては、決断という言葉における「決める」ことではなく、「断つ」ことに重要性があり、リーダーシップとは「Aと決めたら、Bを断つ」ことに組織を終始させることができる「勇気のある判断」とであると思う。

リーダーが決断に至るまでに迷うことは構わない。しかし一度、決めた後は選ばなかった選択肢を断つことが、成功への必須条件であると感じている。

しかし人間は弱いものだ。Aと決めても、やはりBではないかという迷いや疑問を払拭できずに、集団の時間やエネルギー、能力などを分散させてしまい、最終的にはその迷いが失敗の要因になる場合が多いように思う。

繰り返しになるが、リーダーシップには決断が求められ、決断とは決めることだけではなく、断つことこそが重要であり、その為には全体を俯瞰した無私の勇気が必要であるというのが私の結論である。

時代の変化は急激であり、人や企業が生き残り、成功を重ねることは困難さを増している。こうした中で益々、リーダーシップの本質の見極めが求められると言えるだろう。

この変革の時代に、勇気ある決断ができるリーダーの登場が、次世代へのイノベーションを創るものと期待している。